

# 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)～最新の知見～

診療部長 片岡 雅明

現在、国内での新型コロナ感染者数は減少してきており、全国で159人、広島県で2人（11月19日現在）となっています。みなさん一人ひとりの感染対策の結果であり、素晴らしいことだと思います。

ところで、新型コロナウイルスはいなくなってしまったのでしょうか？

この感染者数の減少はこのまま持続するのでしょうか？

それでは、海外に目を向けてみましょう。ワクチンの2回接種率が70%程度のイギリスやドイツでは1日の感染者数が3万人を超え、ワクチン接種率の低いロシアでは1日の死亡者数が1,000人以上と過去最高を更新している状況です。

ブレークスルー感染という言葉聞いたことがありますでしょうか？

ブレークスルー感染とは、2回目の新型コロナワクチン接種を受けてから2週間後以降に、新型コロナウイルスに感染する事を言います。

ワクチンを2回接種したから感染しないのでは？とお考えの方もおられると思います。ワクチンの感染予防効果は従来型のコロナウイルスでは95%程度といわれ非常に効果の高いものです。

では、なぜワクチンを2回接種しても感染するのでしょうか？

まず、ワクチンの効果の減弱があげられます。ワクチン接種後6～8か月には抗体価の減少している事が指摘されています。次に、感染力の強い変異株の出現です。第5波で主流であったデルタ株では、従来型より約2倍の感染力がありました。

それでは、ワクチン接種は意味がなかったのでしょうか？

東京都の感染者数をみますと、ワクチン接種した人は、未接種の人より感染者数が約1/10程度に抑えられ、重症化の予防効果もみられました。

さて、感染者数の減少とともに、飲食店でのお酒の提供、県境をまたいでの移動、ワクチン・検査パッケージ（ワクチン接種証明や事前のPCR陰性証明があれば大規模イベントやパック旅行に参加できる）が始まりました。海外では経済活動の再開とともに感染者数の増加がみられています。海外で感染者数の増加がみられる要因として、ワクチン接種の時間経過による効果の減弱や、冬場で狭い部屋に密集する機会が増えた事が原因と考えられています。今後、国内でも感染者数や死亡者数が増加するのではないかと考えられています。

では、対策はどうでしょうか？

コロナ感染症の経口治療薬（感染後の入院率を50%減少させる事ができると言われている）の登場や点滴抗体療法を行なう体制も整ってきました。最近では、ワクチン未接種者が濃厚接触者になった場合の感染予防薬も登場しています。

また、3回目のワクチン接種が決定しました。今後、18歳以上で8か月を経過した人から順次接種券が配布されます。また、行政は、現在より2倍の感染力のウイルスが出現した場合を想定し病床確保や体制構築を行っています。医療側や行政も十分な対策を講じております。みなさんも一人ひとりが十分な感染対策をしていただき、医療崩壊を防ぎながら、少しずつ経済活動を再開していただけたらと思います。

## オンライン面会を行っています。

予約制となっておりますのでご希望の方は

公立世羅中央病院 ☎0847-22-1127へお問い合わせください。

